

# 妻ヶ丘中学校だより

令和 7 年 6 月 2 7 日（金） 校長 飯干 裕二

## 都城地区総合体育大会お疲れさまでした

5月29日（木）の水泳競技から始まり6月13日（金）の軟式野球競技まで、雨天順延の競技も多々ありましたが、多くの3年生にとっては、最後の大会となる都城地区総合体育大会が無事に終了しました。

私も校長として、本校の生徒が出場する競技をできるだけ応援させてもらいました。結果等につきましては、随時、シグフィー等でお知らせしていますので、ご確認ください。

さて、応援に奔走する中で、多くの感動的な場面に遭遇しました。勝利の瞬間の嬉し涙、敗退後の悔し涙。同じ涙であってもその内容は違いますが、一つ言えることは、この涙は間違いなく、今後の人生において大きな糧となるはずです。

そして、本校からも多くの生徒が県総合体育大会に出場します。今度は学校の代表のみならず、都城地区の代表として出場します。残念ながら出場できない生徒の分まで、粘り強く「心のこもった」試合をしてくれることを期待しています。

## 生徒総会が終わりました

5月27日（火）に生徒総会が行われました。本年度の生徒会重点目標・生徒会スローガンの決定、各専門委員会取組目標変更、生徒会会計報告・今年度予算、よりよい学校にするための要望等が協議されました。その中でも中心議題として設定された、「タブレットの使い方を見直し、学校生活を充実させる」につきましては、活発な意見が出されました。特にタブレットの使用について、業間の休息時間の使用及び昼休みの使用について、制限を外してはどうか。という意見が焦点化され、中央委員会等で、今後も継続して協議が行われることになりました。まさに、生徒の実生活に即した中心議題だと感じています。しかし、考えなければならないのが、本校のタブレットの実態です。非常に故障が多く、修理の台数は本市の学校の中でも突出しているようです。故障を防ぐことも考えてして欲しいと思います。また、使用の時間帯においては、生徒だけではなく、職員でも話し合いを行い、生徒会執行部と協議していきたいと思います。

課題は残されていますが、今回の生徒総会の準備・運営に携わった生徒の皆さん、本当



にお疲れ様でした。今後も生徒の皆さんの「自立」を目指した活動が、数多く展開されますことに期待しています。

## 第Ⅰ回学校運営協議会が開催されました

6月5日（木）に本校で第Ⅰ回学校運営協議会が実施されました。学校運営協議会は「地域とともにある学校」を推進する有効な仕組みで、「学校の応援団」や「学校経営の参画者」として活動いただいております。また、学校と地域社会が有益な「Win-Win」な関係を築くことも目的としています。

本年度の委員（8名）の方々をご紹介します。

- 山元 博司 委員（西部公民館長）※委員長
- 川添 康史 委員（元東町公民館長）※副委員長
- 木下 和男 委員（地区自公連会長）
- 堀川 渉 委員（福島公民館長）
- 鈴木 康伸 委員（主任児童委員）
- 川畑 洋子 委員（元本校PTA会長）
- 早川 純子 委員（南九州大学 教授）
- 大和ゆずる 委員（本校PTA会長）

## ふだんの 暮らしの しあわせ

「福祉って何だと思う？」と生徒の皆さんに聞いてみると、「障がい者や高齢者を助けてあげること」という意見を多く聞き、狭い範囲で、どうしても他人事に考えているように感じてしまいます。確かに間違っていないかもしれませんが、福祉とは「ふだんの 暮らしの しあわせ」をつくることで、特別な活動をすることではなく、普段、行っていることも含め、範囲がとても広いのです。そして、とても大切なのは「してあげる」という概念ではなく、「我が事（自分のこと）」として捉え、活動していくことです。

私は、今年度から都城市社会福祉普及推進校連絡会の会長（昨年度は副会長）を務め、都城市社会福祉協議会や都城市ボランティアセンターが主体となる活動に、できるだけ参加させていただいております。その際に感じることは、会場内に「ありがとう」や「がんばろうね」など、多くの幸せ言葉が飛び交っており、とても心地よい気持ちになります。是非、皆さんもボランティアに参加してみたいかどうかです。

最後に、本校は2年前から積極的に地域等へのボランティアを行っています。ボランティアの4原則をご提示いたします。

- 「自主性・主体性」 自分から進んで行動する。
- 「社会性・連帯感」 共に支え合い、学び合う。
- 「無償性」 見返りを求めない。
- 「創造性・開拓性・先駆性」 よりよい社会をつくる。